

今、静かなブームを生んでいる“山川彌千枝”って？
大正～昭和初期、短い時間を駆け抜け抜けた天才少女の遺稿集
「薔薇は生きてる」を島田歌穂主演で舞台化！

音楽
ミュージカル
朗読劇

歌・朗読
島田歌穂

薔薇は生きてる



原作 山川彌千枝
作詞作曲 小椋 佳

2012年 9月15日(土) 17時開演 栃木市栃木文化会館小ホール
(16時30分開場) 【お問い合わせ】 栃木市栃木文化会館 TEL.0282-23-5678

チケット料金

3,000円(全席指定/税込)
未就学児の入場はご遠慮ください

前売り開始

2012年7月21日(土)
窓口販売9時
インターネット販売12時
電話予約14時

プレイガイド

栃木市栃木文化会館 0282-23-5678
栃木市大平文化会館 0282-43-5231
栃木市藤岡文化会館 0282-62-4321
栃木市都賀文化会館 0282-27-8855
栃木市西方公民館 0282-92-2879
イープラス <http://eplus.jp>

<託児サービスあり>
要予約 お子様お一人につき1,000円

主催：栃木市栃木文化会館(共立・環境整備・日立ビルシステム共同事業体) / オーサーブル
後援：栃木ケーブルテレビ、株式会社エフエム栃木、栃木市教育委員会、朝日新聞宇都宮総局、
栃木南部よみうりタイムス、毎日新聞社宇都宮支局、下野新聞社、株式会社栃木放送



シアトリカル
コンサート

薔薇は生きてる

ミュージカル
2012年新春の話題作・音楽朗読劇「薔薇は生きてる」が早くも再演！

小椋佳が全13曲を作词作曲。山川彌千枝×島田歌穂×小椋佳による感動を、再びあなたに！

大正時代を生きた少女・山川彌千枝による原作は、8歳から結核で亡くなる16歳までに書いた日記や短歌、書簡などを編纂したものです。当時不治の病であった結核を患い夭逝した少女が書いたとは思えない、キラキラとした生の息吹きに満ちた文章の数々。明るく活発で読書家、ちょっとわがままで、でも日記でこっそり反省していたり…そんな彼女に、読む人すべての心がキュンと動かされることでしょう。彼女が亡くなった後、遺稿集として編まれた「薔薇は生きてる」は当時のベストセラーとなり、川端康成、武者小路実篤、菊池寛らから高い評価を受けました。最近では2008年の復刊を読んだ川上未映子さんや緒川たまきさんも大絶賛。

“どこまでも空を見ながら駆けていった、
なんていいきもち、でもゆめだった”

“窓ぎわで見た空のひろさ、ああ私は空の全部が見たい”

“美しいばら さわって見る、
つやつやとつめたかった。ばらは生きてる”

この歌を読む者は無意識のうちに『つめたかった』の背後に

<私>の指の温もりを感受するのだと思う。

「ばらは生きてる」とは「<私>は生きてる」の痛切な裏返しなのである。

穂村弘（歌人）

繊細で精密だけれど、

神経過敏な折れやすさとは無縁の、動くてよく撫る文、

ほっとけばどこまでも伸びていきそうな言葉なのです。

千野帽子（文筆家）



原作：山川彌千枝 構成演出：砂田 晋平

作词作曲：小椋 佳 企画：山川 泉

出演：島田歌穂

(歌・朗読)

演奏：松田直樹 (鍵盤ハーモニカ)

徳永友美 (バイオリン)



初演アンケートより

- 美しい純粋な少女の気持ちとそれにぴったりの曲。心に訴えるものがありました。朗読も歌も本当によかったです。
- 朗読もお芝居も歌もすばらしい舞台でした。シンプルなだけに集中できる良い作品だと思います。
- やちえさんの詩、お母さんの日記、とても素晴らしいです。きれいで上手なかほさんの歌のような語りど歌で、とても情感たっぷり伝わりました。